

SUMMARY

No092719

<NOTICE>

9/30(月)のレポートはお休みです。

10月10/1(火)よりレポートを配信します。

10月のサイクルは米国においては年度末のサイクルです。

10月は比較的大きなRMが発生しやすい傾向にありますがそれを見込んでオペレーションを実行する必要はありません。

10月が年度最後のサイクルなら11月は新年度のサイクルになります。去年は例外でしたが、11月、12月のサイクルは通常、9月、10月と違って変わって平穏なサイクルになる傾向にあります。

数値の変化は1年を通して波がありそれが繰り返されています。

数値は一定のレンジを往復してはなりません。“制度的に”数値が毎月エクスパイアを迎えて一度途切れるので表面上そのように見えるだけです。実質的には途切れることなく数値は連続しています。そして、すべての数値は循環/連続し実質的にNに向かいます。……そのような数学的な原理を知っていればRMを恐れる必要はありません。むしろ、RMを収益機会として捉え事業目的に敵うようにうまく利用できるようになるでしょう。

時々ナンバーオペレーションの原点に立ち戻ってレビューしてください。

今週のポイント掲げます。

ナンバーオペレーションの原点

- 数とは何か
- 数式と言語
- 思考と科学(社会科学と自然科学)
- マトリックスの数値/数値構造
- 数値のサーキュレーション/コンティニュイティ
- 「すべてはNになる」数学的原理

異なる価値体系

相場=経済学(社会科学)の世界、ナンバーオペレーション=数学(自然科学)の世界として、2つの世界を区別してご覧ください。それら2つの世界は全く異なる価値体系を持っています。さらに、踏み込んで言えば、相場(社会科学)は地球の(人間の作った社会の)価値体系をベースにして作られた制度です。一方、ナンバーオペレーション(自然科学)は宇宙の(“自然の”；「宇宙」と「自然」は同義です。)価値体系をベースにしています。

ナンバーオペレーションの理論の背景には重要な価値体系があります。

↑
教訓の変化には seasonality (季節性) の認められず 例外ありあり。 秋の期待はオペレーションを行わない。

← ナンバーオペレーションの原点は基礎です。